

本邦製鐵事業振興策調査書

第五項

現時本邦に於ける鐵鋼販賣業者の商慣習

第一章 序論

抑々本邦に於ける製鐵事業たるや、夙に識者に依り國家存立上其必須たるを唱導せられ、早くより政府事業として釜石、中小阪等に於て經營せられたれとも成績擧らすして失敗に次ぐに失敗を以てし、遂に中止するの悲境を來し、後年民間に拂下くるの已むなきに至り、其後種々の變遷を経て官業に於ける八幡製鐵所、民業に於ける釜石製鐵所等、官營民營交々隆盛の域に進むに至りしか、完全なる工場並に製品の出現は最近の事に屬し、今日に於ても産額微々として僅に需要の三分の一を滿すに過ぎず、年々海外より多額の供給を仰ぎ、辛して激甚なる需要増進の勢に應しつゝある状態なり、生産の狀況上述の如くなりしを以て鐵鋼販賣業者は比較的早くより、海外市場と取引を開きて需給の調節を圖りしか、其額の大なると斯業の有利なるとは相俟つて業務の般盛を促し、現今に於ては中間外商の手を経る事なくして直接輸入をなす邦商少からざる状態にして進歩せる組織、方法到る所に採用せられ、取引上に於ける多年の因襲の如き、亦多く顧みられざるを以て此種販賣業者の取引上に時人の感興を惹くに足る慣習を求むる事不可能なるか如し、左に記述する所は主として斯業取引上の一般の事情に過ぎず、何等特殊なる點なく加ふるに此の種の調査に資すへき参考書類皆無と云ふも不可なく、何等據るへきものなき結果は僅に主たる當業者に就き聴取せる所を綜合輯集して稿を成すの外に採るへきの策なきに苦めり。

而して本調査に當りては、本邦各地に亘り、廣く資料を求めて各市場の慣習を網羅する事必要なれども、忽々の際其の機を得ず、僅に東京大阪地方の現状を調査せるに過ぎざるは遺憾とする所なれども、現時に於ては上記二市場の外には横濱、神戸、名古屋等二三、斯業の殷盛なる地なきに非すと雖、固より前二地には比すべくも非ず、且當業者の語る所によれば、各市場に依り特殊の慣習と稱すべきものなく、全國殆ど取引慣習の軌を一にせるものの如くなるを以て本稿も概括的に記述する事とせり。

次に鐵鋼販賣業者の範圍に就て解釋上之を廣義に見る時は單に *Rough material* のみならず各種微小の加工製品の販賣業者をも包含せしむる事を得べく、其取引上の慣習の如きも調査上興趣少からざるものあるに似たり、然れども本調査の眼目は斯の如き各種微小の製品の販賣上に存せざるべきを以て本稿は主として *Rough material* の販賣上の慣習に就き叙説するものとす。

第二章 販賣の徑路

近時、産業並に交通の頓に發達せるに隨ひ、生産者と消費者との關係漸次密接し、古來商品賣買上に劃然たりし、生産者——問屋——仲買業者——小賣業者——消費者の系路錯雜して統一無く、永年の賣買組織は根底より破壊せられんとし、生産、消費の間隔日を逐ふて狹めらるゝに至れり。殊に最近、企業經營の大規模に赴かんとする趨勢は次第に生産と販賣とを同一經營の下に集成せしめんとする傾向を馴致するに至れり。更らに資本の集中大なる歐米諸國にありては此の傾向産業界を風靡し、一企業の生産、販賣を同一徑路の下に集中するに止らず、更に數個同種の企業を打て一團となし、又は互に相聯合して市場を獨占せんとする風潮盛にして經濟界に於ける利害交々生起し、資本集中に對する是非の論議既に世上に喧傳せらるゝに至れり。

本邦産業界の現状を以て之に對比せんか、其の之に達せんとする勢は既に已に其の幼芽を萌しつゝありと雖、其の差未だ霄壤も霄壤も雷ならず、之を鐵鋼販賣業に就て見るも、英國グラスゴウの鐵業組合、獨